

プログラムの主な特徴 ▶ 経済安全保障上、我が国に必要な重要技術を見極め

- 先進国が先端技術の研究開発にしのぎを削る中で、我が国にとっての**技術的な優位性・不可欠性を確保・維持**
- **市場経済のメカニズムのみに委ねては投資が不十分となりがちな先端技術**を育成・支援
- 科学技術の多義性を踏まえ、**民生利用のみならず公的利用にもつなげていく**ことを指向
- **中長期的な視点（10年程度）**を持ちつつ概ね**5年程度**のスパンで**社会実装を見据えた研究開発**を基本として推進
- 各種戦略や既存事業との関係で**新規補完的な役割**（中長期的には相乗効果を意図した積極的な役割）

研究開発ビジョンの特徴

- 研究開発ビジョンは、本プログラムにおいて「**支援すべき重要技術**」を示すもの
- **支援対象となり得る技術の3つの要素**（「経済施策を一体的に講ずることによる安全保障の確保の推進に関する法律」に定める特定重要技術を前提）
 - 急速に進展しつつあり、かつ様々な分野での利用が不連続に起こり得る**新興技術**
 - 刻々と変化する国内外の脅威や安全・安心に対するニーズや課題などに対処しうる**技術**
 - **アカデミアやスタートアップ企業などの多様な主体が参画**して新興技術を取り込んだ社会実装につなげる**技術**
- 中長期には**シンクタンクの知見等の活用、技術の獲得をグローバルに培っていく視点**

研究開発ビジョンの構成及び支援対象とする技術

- 「**先端的な重要技術**」×「**社会や人の活動等が関わる場としての領域**」を考慮し、全体を俯瞰
- **研究開発ビジョン（第一次）**において**支援対象とする技術**を整理（別紙）
 - 【先端的な重要技術】 AI技術、量子技術、ロボット工学、先端センサー技術、先端エネルギー技術
 - 【場としての領域】 海洋領域、宇宙・航空領域、領域横断・サイバー空間領域、バイオ領域

プログラムの推進にあたって配慮すべき事項

- 協議会の活用、多様な人材の参画、情報の適正な管理等の確保
- 先端技術の研究者による研究開発への参画
- システム化、ビッグデータ処理
- 他領域との連携による付加価値向上
- 中長期的な国内人材育成
- 調達、規制緩和や国際標準化の支援検討
- 社会実装の担い手、将来の運用枠組み
- "責任ある研究とイノベーション"への留意